「今週の一枚」

ヒノキ林の枯れあがり

スギやヒノキを植林して１０～２０年たつと，枝が伸びて，となりの木の枝との間にすき間がなくなってきます。そうなると，低い枝についてる葉には太陽の光が直接当たらなくなり，上の方の葉を通した光だけになります。植物の葉は太陽の光エネルギーを吸収して光合成をおこない，自分自身の体を作るので，下の方の葉は光が足らなくなって枯れてしまいます。木が成長して背が高くなるにつれ，生きている（緑色の）葉の位置が高くなり，枯れた葉の位置も上へ上へとあがっていきます。これは，「枯れあがり」と呼ばれる現象で，良い木材を生産するためには重要です。

枯れた枝はいつか無くなり，節が少なく，下から上まで太さが変わらない丸太ができます。ただ，写真のように，若い林では枯れた枝がなかなか落ちないので，枯枝や枯葉も光をさえぎり，地面にはどんな植物も生えることができないくらい暗くなります。そのため，枯れた枝は切り落とした方が良いでしょう。「枝打ち」というのは生きた枝まで切り落とすことで，葉が少なくなるために木の成長は少し悪くなりますが，枝の無い幹の部分を長くし，地面に草を生やすことができます。（垰田）

（No.28　2001.12.10 掲載）